

# 一般社団法人 福島県鍼灸師会 令和2年度 事業報告

<令和2年4月1日から令和3年3月31日>

月 日	事 業 内 容
令和2年	
4月29日	郡山シティーマラソン大会（中止） ※ボランティア施術
5月18日	『福鍼会だより』第143号発行
11月19日	冬季学術講習会（会場および Zoom のハイブリッド開催） 講演第1部 演題：「令和2年度 第1回療養費等適正運用指導研修会」 講師：公益社団法人日本鍼灸師会 健保委員会副委員長 小林潤一郎先生 講演第2部 演題：「男性不妊について」 講師：会長 三瓶真一 講演第3部 演題：「Cinemeducation シネメデュケーション；鍼灸師による地域・家庭医療を考える」 講師：福島県立医科大学医学部 非常勤講師 一寸法師ハリ治療院院長 中沢良平先生
11月24日	『福鍼会だより』第144号発行
12月13日	はり・お灸体験教室（須賀川市 TETTE） ※青年委員会・鍼灸女子委員会による鍼灸体験および健康相談
令和3年	
1月23日	『広報ふくしんかい』第93号発行 <a href="http://fukushima-harikyuu.jp/files/koho/koho/kouho_93.pdf">http://fukushima-harikyuu.jp/files/koho/koho/kouho_93.pdf</a>
2月28日	いわきサンシャインマラソン（中止） ※ボランティア施術
3月15～17日	第26回日本災害医学会総会・学術集会（Zoom オンライン開催） 演題：「令和元年台風19号による水害避難者等に対する鍼灸マッサージボランティア施術」 ※演者派遣：会長 三瓶真一



# 福鍼会だより

2020年  
5月11日

発行 / 一般社団法人福島県鍼灸師会  
(執筆者：会長 三瓶真一)

No. 143

## 令和2年定期会員総会が開催されました

会員のみなさまこんにちは。今年のGWはいかがお過ごしでしたでしょうか？

毎年4月に開催しておりました定時会員総会は新型コロナウイルス感染拡大にともない、会員の皆様は委任状での議決権行使をお願いし、必要最小限の人員で写真の通り開催いたしました。



会場は郡山安積町の一寸法師ハリ治療院です。前会長の中沢良平先生の治療院です。

緊急事態宣言が全国へ拡大したため、実は総会開催日の2日前に郡山市から公共施設の使用禁止となりました。急遽、中沢先生へお願いし会場を提供いただきました。

皆様へ事前にお送りしていました総会資料の通りに進行し、無事に終了することが出来ました。

なお、創立70周年を記念して入会促進事業を展開することとなりました。通常3万円となる入会金が入会者へ学術奨励金として2万円キャッシュバックすることにして、実質1万円十年会費で本会に入会できます。ぜひ鍼灸師免許を取られたご子息、ご息女、また従業員やご友人を本会にお誘いください。

## マスクが安くなった??

日鍼会からマスクの販売の案内が来まして、メーリングリスト会員へは即時に連絡できましたが、メーリングリストへ登録されておらず、メールアドレスがない会員へは緊急連絡網を使ってマスク購入のとりまとめをしました。が、なんと締め切り前にすでに売り切れてしまったと日鍼会から連絡がありました。さあ困った、どうしようか。ネットを見ると安く出回っていることが確認でき、代引きでの発送をしてくれるところを探して、マスクを希望する会員の皆様への取次ぎをしました。

今現在ですとさらに安くなり50枚一箱で送料込み1,300円(カード払いのみ)というところなどがあります。



購入したいけれどネット通販ができない、という方は三瓶までご一報ください。代引きだと品代・送料で多少割高にはなりますが、三瓶が代行いたします。

## 夏季学術講習会が延期となります

毎年の夏季学術講習会は会津医療センターで開催しており、本会の名物講習会となっています。非常に残念ながら福島医大は県の施設であり、総会会場の突然の使用停止と同じく、今年の夏季学術講習会に会場を貸せなくなりました。そのこともあり今年の夏季学術講習会は延期とさせていただきます。今年講師として予定しておりましたNHKのドクターXにも出演する会津医療センター総合内科教授の山中克郎先生も、『十分安全となった来年に“攻める問診”を存分に披露いたします！』とのことでした。また緩和医療で準備していた鈴木雅雄先生の講義も来年に延期となります。昨年は会津医療センターでの夏季学術講習会の前夜に、本会の鍼灸女子委員会が東山温泉一泊で交流会を行ったそうです。コロナ終息となり、来年夏季学術講習会が開催となるときには、女子会のみならず会員みなさんで一泊の交流会を開始したいと思っています。その際はぜひみなさんご参加ください(^)/

## 福島県も新型コロナウイルスによる緊急事態宣言対象地域に！！

去る4月17日に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の対象地域が拡大され、我が福島県も不要不急の外出自粛や、飲食店などの早い時間での閉店など余儀なくされています。皆様の治療院の売りに上げに影響はないでしょうか。東京など首都圏、北海道、福岡県などの特定警戒都道府県内の鍼灸院では、売りに上げが7割以上も減ったところがあるとの情報があります。もし経営に不安があるような状況であれば、政府系金融機関での無利子無担保での融資や、事業を存続させるための『融資ではない給付金』など様々な制度が準備されていますので、ぜひ別紙の案内などをご覧ください。ネット環境がなく経済産業省のホームページを見ることができない等の方は、三瓶までご連絡ください（電話0248-27-1846）

特に、個人経営の場合は100万円、法人であれば200万円支給の『持続化給付金』や、われわれ個人経営の鍼灸院などまで取扱職種の拡大したセーフティネット5号保証などは申込も簡単で敷居が低いようです。

### 【メールリスト登録のお願い】

本会からの情報をいち早くお届けできるよう、メールアドレスをお持ちの会員の先生はぜひ福島県鍼灸師会メールリストへ登録ください。登録希望の会員の先生は、担当の山内理事までメールをお願いいたします。担当：山内隆一 hokendo.yamauchi@gmail.com

### 【おわりに】

今年6月27日・28日に郡山で予定していた日鍼会東北ブロック会議が1年延期となりました。まだ正式な通知はありませんが、今年の東北鍼灸学会（岩手大会）も延期となります。

アフターコロナを見据え『新しい生活様式』が提言されています。すなわち直に対面しての商行為を含むコミュニケーションから、オンライン、通信販売、持ち帰りテイクアウトなど、われわれ鍼灸業としては難しい世の中となりそうです。特定警戒都道府県を除く福島県など34の自治体は緊急事態宣言の対象区域から5月14日から解除になることが濃厚になってきましたが、経済回復を目指して早々と外出制限を解除した諸外国の第2波の感染再燃が問題となっています。引き続き感染症対策には十分すぎる方策を取り入れ、治療院がクラスター発生場所にならぬよう、気を付けて頑張っていきましょう！（文責：会長・三瓶）

## 冬季学術講習会が開催されました！

11月22日(日)、郡山市民交流プラザ(ビッグアイ)7階 大会議室1にて冬季学術講習会が開催されました。コロナ禍により、春と夏の学術講習会が延期となり、ようやく実現した冬季学術講習会。全国で感染者数が増大する中、郡山市の指針により180名以上収容できる会場でしたが45名以内に抑え、受付では検温・消毒を実施、参加者にも1テーブルに1人着席、消毒やマスクの着用をお願いするなど、万全の体制で実施しました。

そして、今後の学術講習会のあり方の一つで、オンラインとリアル参加のハイブリッド化を見越した実験として、第1部のみビデオ・Web会議アプリケーションである『Zoom』を使い、学会東北支部の会員数名に視聴していただきました。結果は好評価をいただきまして、今後は可能な限りオンラインでも講習会を視聴できるように目指していきます。



第1部は本会会長の三瓶真一先生が『不妊治療で大切なこと～男性不妊について～』と題してご講演されました。

男性不妊にフォーカスした内容となっており、WHOの精液基準の根拠をご紹介、世界的に精子の数が減っている事実(1930年代は1ml中1億5千万個、1990年代は1ml中5千万個)の解説、三瓶会長が施術された貴重な症例報告など、盛りだくさんな内容でした。

後半には実技も。「五里～沢田流五里の間にある圧痛」と「三陰交」に寸6・3番鍼で刺鍼するデモンストレーションの他、中髎への刺鍼、陰部神経鍼通電療法など、先生が現場で実践されている手技を惜しげもなく披露していただきました。

披露していただいた経穴は生理痛や生理不順にも効果的とのことでした。小沼の後日談になりますが、生理前の下腹部鈍痛に著効があったことをご報告させていただきます。





第2部は『療養費等適正運用指導講習会』。日本鍼灸師会 健保委員会 副委員長の小林潤一郎先生をお招きし、鍼灸の保険治療に関する最新の動向を多岐にわたって解説していただきました。特に令和2年12月の料金改定、長期・頻回施術の今後について（償還払いに戻せる仕組みの検討について）、保険治療に携わる者が知っておくべき興味深いお話を丁寧にいただきました。

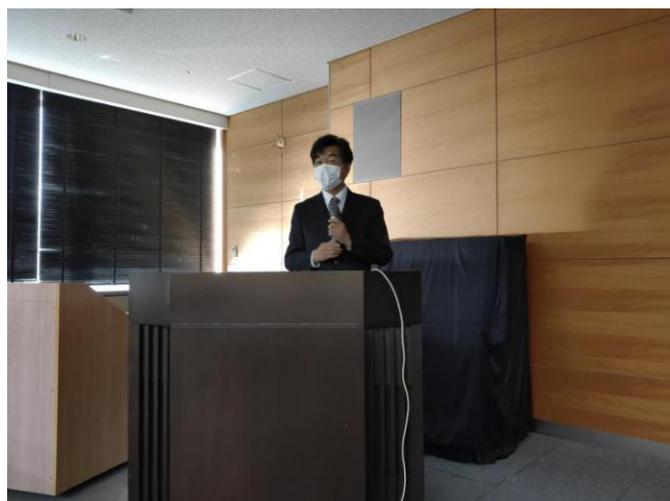
講演後、保険治療を行っている数名の会員から熱のこもった質疑があり、その内容は予定時間を

超過するほどでした。

実際の現場から出てくる様々な問題をガイドラインだけで解決することは難しいですね。受領委任制度が開始して1年半が経過した今、現場の声をもっと拾い上げていただきたいと願います。レアケースもありますから完全に対応するのは難しいかもしれませんが、現場の鍼灸師の心配や不安を解決できるような仕組み作りが急がれます。

第3部は全日本鍼灸学会 理事 東北支部長の中沢良平先生による『Cinemeducation シネメデュケーション；鍼灸師による地域・家庭医療を考える』をご講演いただきました。

日本では福島県立医科大学医学部地域・家庭医療学講座主任教授の葛西龍樹先生が推進されており、映画の一部分（クリップ）を用いたディスカッションのことをいいます。家庭医は、様々な人々の人生に関わります。映画を用いて、そのクリップの感想を語り、家庭医に求められる感受性を養うセッションです。



本来はグループに分かれてディスカッションを行い発表する、ワークショップ形式になりますが、コロナ禍ということで中沢先生が参加者一人ひとりに意見を聞いて回っていただきました。それぞれ出された感想は個性があり、様々な側面を捉えることができるものだと感心しました。

演題の副題には「地域・家庭医療を考える」とあり、これはプライマリ・ケアの話につながっていきます。医療の最終的な目的は、その地域に暮らす住民が生きがいを持って暮らせる人生を支えること。鍼灸師もその役割を担っています。日々の診療・臨床に忙殺され、プライマリ・ケアの基本的な考えが頭の片隅に追いやられてしまっていることはありませんでしょうか？ 恥ずかしながら小沼は片隅に追いやるところか忘却の彼方になっていました。今回、こうした機会をいただけたことで改めて地域に根差す鍼灸師像を思い出すことができ、とても有意義な時間を過ごせたことに感謝しています。